MEIJO Q&A 05

農学部 生物環境科学科

Q. 空気がきれい、ではだめなの？

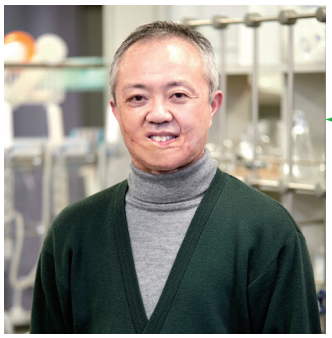
日本の空気は確実にきれいですが、きれいすぎることがよいかどうかは別問題です。

グローバル化が進んだ今日、日本の空気だけを論じても意味がない。

過去、大気汚染というのは、日本にとってもなじみ深い問題でした。四日市ぜんそくと呼ばれるものや川崎公害、少し前にはダイオキシンの問題など、いくともニュースになっていましたが、今の日本はいろいろな技術革新によって、空気は確実にきれいになりました。しかし、グローバル化した現代社会の中で日本のことだけ論じていても意味がありません。隣国である中国のPM2.5の汚染は、日本の国土に匹敵するほど広がっていますし、それ以上にインドや南米でも大気汚染が進んでいます。今、日本のすべきことは、過去に乗り越えてきた経験を活かし、国際協力というカタチで海外に目を向けることです。海外にはまだまだ、日本の40～50年前と同様、大きな環境問題が発生する可能性があります。それを阻止することこそ、日本の技術力であり、世界に貢献できるチャンスでもあります。

空気は確実にきれいになっているが、ぜんそく患者の割合は増え続けているという現実。

私の研究テーマは、環境中に存在する有害化学物質の分析です。現在、日本の空気は確実にきれいになっています。汚染物質と言われる窒素酸化物や硫黄酸化物の濃度も減少していますが、なぜかぜんそく患者の割合は増えているのです。これは非常に難しい問題で、“きれいになり過ぎることで人間本来の免疫力が低下してきてはいないか、きれい過ぎることが本当に良いのか”という問いかけにもなっています。安全というのは科学的な根拠、安心は人間の心理。私たちはその心理的な面で0か10かの判断にこだわり過ぎているのかもしれません。そういう意味でも、物事を定量的、定性的に判断し、もし危険だとするなら、どう危険なのか、どれぐらい危険なのかを客観的にとらえることが必要だと思います。



大浦 健 先生

PROFILE

小さい頃からなんとなく研究者に憧れていたという大浦先生。出身大学の担当教授の影響もあって今の道へ。モットーは人のまねをしないこと。そのため、世間の風潮に流されず、自分の考えを貫く生き方をしている。

学生時代のマイブーム

部活一色。継続する力は研究にも活きる。

小学校から大学まで剣道を続けていました。全国大会出場を目指して厳しい練習の毎日でした。残念ながら夢は叶いませんでしたが、研究で重要な「諦めない心」はこの部活動で養われたと思います。